

## 会議録

- 1 会議名  
令和4年度第1回上越市自殺予防対策連携会議
- 2 議事（全て公開）  
(1) 自殺の現状と自殺予防対策について
- 3 開催日時  
令和4年8月17日（水） ※書面開催
- 4 開催場所  
—
- 5 傍聴人の数  
—
- 6 非公開の理由  
なし
- 7 書面会議に参加した者の氏名（敬称略）  
委員：川室優、五十嵐透子、宮崎貴博、渡辺裕美、壘真穂、小宮山陽子、  
浅野健志、宮尾達江、松本新一、原山晃、山本克志、山田直人、  
田中美恵子、田中勝、清野美佐緒、松縄麗、佐藤まゆみ、佐藤悠、  
澁谷恵子、高原稔、丸山富一郎、柴好子、丸山尚子、木嶋澄、  
木邨慎一、菊間博子、内田慎一、星野悟史、藤巻祐介、雫石政利、  
牧井創、曾我茂樹  
事務局：小林福祉部長  
大山健康子育て部長  
すこやかなくらし包括支援センター 渡辺所長、岩崎次長、  
川合副所長、長谷川主任  
健康づくり推進課 長嶺上席保健師長、今野保健師長、浅野主任、  
瀧澤主任、富永主任
- 8 内容（要旨）  
別紙のとおり
- 9 問い合わせ  
福祉部すこやかなくらし包括支援センター  
TEL：025-526-5623  
E-mail：[sukoyaka@city.joetsu.ig.jp](mailto:sukoyaka@city.joetsu.ig.jp)
- 10 その他  
別添の資料も併せてご覧ください

令和4年度第1回上越市自殺予防対策連携会議（書面会議）の質問・意見に対する回答一覧

No.	委員	意見・質問	資料	回答
1	五十嵐透子	<p>高齢の女性と30代、そして20代以下の女性、50代の男性などから無職や独り暮らし、家族と一緒にでも関係を閉ざした、孤立化した状態をイメージする。本人から関係を持つとしない状態で、休職や欠席している間に孤立感を強める可能性が高まるので、何らかの〔つながり〕が不可欠。</p> <p>SNSなどのinternetは高齢や成人中後期の男性の場合、どの程度活用しているか。これらの年齢層の孤立化防止におけるSNSやinternetの活用はどうなっているか。医療機関や関連機関で、抑うつ的な状態や孤立化した状態が推測できる場合の、他とのつながりへのより積極的なかかわりに関する方針も必要か。</p> <p>コロナ禍で、オンラインによる相談システムが導入されてるが、internet上での居場所感の効果＝何らかのつながりを持つ状態は、現実の生活の中での居場所感と有意差がみられていない。ひきこもりなどの状態にオンラインを活用し、孤立化しない対応体制の確立の検討は進んでいるか。</p>	資料1	<p>現在、SNSの相談窓口を記載したところの健康に関するチラシを配布しています。また、働き盛り世代の人への効果的な周知方法について検討していきます。</p> <p>高齢者やひきこもり等の支援については、民生委員・児童委員、地域包括支援センター等の関係機関と連携し、個々の状況に合わせた支援を行っていきます。</p>
2	宮崎貴博	それぞれの専門職が相互に連携を取り、自殺防止に貢献できればと思った。		今後も自殺予防対策連携会議等を通して、関係機関の皆様と実態を共有し、連携を深めていきたいと考えています。
3	壘真穂	<p>令和4年は激増だった令和3年を超える数になってしまったので、後半期の状況が心配される。</p> <p>資料1の3(2)から、無職者の自殺数が増えていることがわかるが、そういった方たちへの対策の検討が必要と感じる。</p>	資料1	生活困窮やひきこもり等の方への支援については、引き続き、民生委員・児童委員や、地域の相談窓口である地域包括支援センター等の関係機関と連携しながら対応していきたいと考えています。

No.	委員	意見・質問	資料	回答
4	渡辺 裕美	令和4年男性の自殺者数が昨年と比べてずいぶん増えているように見えるが、何か理由を考察できるような共通点や特徴等があるか。	資料1	自殺に至った人の個々の経過や背景については確認することはできませんが、これまで示されてきた厚生労働省の統計のとおり、自殺に至る原因は、健康問題、家庭問題等の様々な要因が複雑化、複合化し連鎖した中で起こっていると考えられます。
5	松本 新一	資料1 新型コロナウイルス、不況の影響か、上越地域でも自殺者が多くなったように思った。 資料4 新潟県の自殺の現状と取組について、現状を見ると女性の自殺者が多くなっている。これは高齢者に多く見られ、生活に対する不安があるのも問題なのか。	資料1 資料4	このようなことから「気づき・傾聴・つなぐ・見守る」体制づくりの活動等を通して、周囲の人がこころの些細な変化を感じ取り、相談につなげることが必要であり、自殺企図の可能性がある場合は、速やかに相談窓口につないでいくことも重要であると考えています。 引き続き、コロナ禍の状況や、自殺者数の動向を注視していくとともに、未遂・既遂事例検討会等を実施しながら、必要な取組を検討し、次期自殺予防対策推進計画を作成する際に反映させていきます。
6	高原 稔	令和3年の自殺者が増加しており、特に男女とも30代までの若年層と70歳以上の高齢者が増加している。 それぞれの背景から、いかなる予防対策が取りうると考えられるか、見解を伺いたい。	資料1	いくとともに、未遂・既遂事例検討会等を実施しながら、必要な取組を検討し、次期自殺予防対策推進計画を作成する際に反映させていきます。
7	小宮山 陽子	急性期病棟として、できる事は限られると思うが、ポスターやチラシ等で啓発に協力できると思う。 自殺未遂で救急外来搬送された方は、引き続き精神科病院と連携をとっていく。		相談窓口のチラシについて、医療機関への配布も検討しており、その際には設置をお願いします。

No.	委員	意見・質問	資料	回答
8	宮尾 達江	<p>自殺者を出さない、誰も自殺に追い込まれることのない社会実現に向けて、私自身何を行動すべきかを考え、こころの健康に関する正しい知識を持つこと、個人情報取り扱い等も大切なことだと思う。</p> <p>情報をキャッチしたら、各相談機関を必要に応じて利用すること、状況を関係機関と連携し取組み、早めに繋げることが必要と考える。</p>		<p>引き続き、自殺予防対策連携会議を通して関係機関との連携体制の強化を図るとともに、自殺予防研修会や体制づくり活動等を通して、自殺予防の正しい知識について周知していきます。</p> <p>希死念慮や自殺企図等の情報をキャッチした時には、関係機関へつなげるなどの対応についてご協力をお願いします。</p>
9	田中 美恵子	<p>市内の自殺者数が増えていること、40歳が多いことが気になった。</p> <p>一市民として『STOP 自死』の手伝いが出来ればと思っている。</p> <p>目に見えないスパイラルをどう防ぐかを今後、一緒に考えたい。</p>	資料1	<p>現状を一人でも多くの市民に知っていただき、相談窓口につないでいくことが大切であると考えています。</p> <p>今後も、会議の中で委員の皆様と現状を共有しながら、必要な自殺予防対策について協議していきたいと考えています。</p>
10	清野 美佐緒	<p>基本方針に沿って様々な取組をしているが、それぞれの取組の評価、課題などを示してもらおうと、より効果的な実施に活かすことができると思う。</p>	資料2	<p>今後の会議の中で、自殺予防対策推進計画の進捗状況や評価等について、委員の皆様と共有し、ご意見を伺いたいと考えています。</p> <p>課題や取組の評価については、次期計画に反映させていただきます。</p>

No.	委員	意見・質問	資料	回答
11	丸山富一郎	<p>今年も男性の自殺者の増加が顕著になっており、令和3年の急激な増加を考えると、今年の下期の増加が懸念される。</p> <p>地域・職場共にコロナ禍が続く中で、直接的なコミュニケーション機会の喪失が大きな要因になっているように感じる。</p> <p>各人が抱える悩み事は多種多様であるが、地域・職場共に気軽に相談できる体制づくりが求められていると思う。</p>	資料1	<p>働き盛り世代に向けた相談窓口の周知や、職場等へのこころの健康に関する啓発が重要であると考えています。</p> <p>上越保健所と連携しながら、企業への研修会や出前講座等を実施し、周知や啓発を図るとともに、相談しやすい体制づくりにつなげていきたいと考えています。</p> <p>また、働き盛り世代に対し、相談窓口の周知ができるよう、</p>
12	柴好子	<p>当センターの会員は、8月1日現在7,023名で中小企業勤労者である。</p> <p>そのうち、男性の10歳代14名、20歳代326名、30歳代578名、40歳代971名、50歳代855名、60歳以上969名。</p> <p>令和4年度は男性の50歳代の割合が増加しているとのことなので、年に4回程度、全会員に会報誌（さくちゃんニュース）を発行しているので、その中で情報提供できるものがあれば協力したい。</p> <p>自殺についてはなかなか身近で起こることではないので、普段関心のないことだと思う。自殺の現状等暗いテーマではあるが、勤労者の会員、その家族の皆様にも少しでも自殺予防の啓発ができればと思う。</p>	資料1	<p>チラシの配布や会報誌等による啓発を推進していきたいと考えていますのでご協力をお願いします。</p>